

川越と火縄銃

火縄銃は黒色火薬を使用した、先込め式の古式銃砲です。点火装置に火縄を使うことから、この名がつけました。日本には天文十二年(一五四三)、種子島に漂着したポルトガル船によって伝来しました。当時、合戦で使われていた弓の有効射程は約八十メートル。これに対して火縄銃は、百五十〜二百メートル。遠くから敵を倒すことができる「新兵器」火縄銃は、瞬く間に戦国大名の間に広まりました。

天文六年(一五三七)以降、川越城を領有した後北条氏も、火縄銃を取り入れた戦国大名のひとりです。後北条氏は相州小田原を本拠とし、鉄砲衆と呼ばれる直属の鉄砲隊を、攻略した各地の城に派遣しました。市内でも、市役所周辺を中心とした川越城や後北条氏の重臣・大道寺政繁の陣所(上戸小学校辺り)にも鉄砲衆を駐留させ、



上杉氏と激しい攻防を繰り広げていたかもしれません。

河越館跡史跡公

園では、5月29日(土)に火縄銃の演武を行います。重厚な火縄銃の響きを体感してみませんか。

川越の畜産

100戸を超えていた畜産農家も、今では宅地化の進行や輸入の影響で、16戸まで減少。谷中には、「小江戸黒豚」を出荷する農場があります。市内にも養豚農家があることを知ってもらいたいという願いから、自家製のハム、ソーセージ販売を行っ



農政課 224-5939

たり、バーベキューができるように工夫したりしています。肉の旨みを引き出すため、サツマイモを配合した飼料で大切に育てられた黒豚の肉は、甘みがあると好評です。

風が吹き抜け、陽光さす施設で鶏を飼育している中老袋の養鶏場。自然な飼育にこだわった鶏の卵は、季節によって味が違うとか。養鶏場などで販売されている卵は、本来卵が持っている抵抗力を生かすため、あえて洗っていません。生卵の良さが味わえる卵かけご飯は、イベント時などに大人気です。

私たちの生活にとって、肉・卵・牛乳は大切な食材です。少ないながらも、養豚、養鶏農家や、酪農、肉牛の農家が、畜産の普及のために、工夫を凝らして頑張っています。



休 みの日、部屋を掃除すると、いらなくなつた紙が出てきました。メモや説明書、ほかにもいろいろ。

古紙は再利用できる資源です。段ボールや紙箱などは、九割以上が古紙の再利用とか。それに比べ、新聞・印刷用紙などの「紙」は、リサイクルに適した古紙を選ぶ必要があるため、古紙利用率は、まだ低いそうです。

下の「リサイクル適正①」の表示は、印刷物をまるごと「紙」にリサイクルできる証しです。

古紙の活用は、ごみの減量だけではなく森林資源・地球環境の保全につながります。まずは、部屋から出た古紙を資源回収に出す準備から……。

小江戸川越観光
キャッチフレーズ

時

薫るまち

川越